

生徒指導通信

上西春別中学校

生徒指導部V.1, 1

2014年4月7日

文責 吉田 昌弘

入学・進級おめでとうございます！

新たに元気な新入生22名を迎える、上西春別中学校の平成26年度がスタートしました。3月には3年生を送り出し、寂しかった校舎にも、新たな22名の元気な声が響き渡ります。それぞれさんは、希望を持って進級、進学したと思いますが、これから1年、上西春別中学校生徒一人一人が力を合わせ、様々な行事を成功に導き、日常生活を充実させるために努力をしてほしいと思います。

2・3年生の皆さんはわかっていると思いますが、上西春別中学校で生活する上で基盤となるものは、「上西春別中学校生徒心得」です。後輩たちの見本となるよう、それぞれ中堅学年・最高学年としての自覚をしっかりと持ってもらいたいと思います。そして新入生の皆さんには、教室などに掲示している生徒心得を意識した生活を心掛けて下さい。

それでは、各学年で意識して生活してほしいことを挙げたいと思います。

★ 1年生 「中学校生活に早く慣れよう！」

小学校と同じように、学校は集団で生活する場所です。一人一人が自分勝手な行動をしていたら、他の人たちが楽しい生活を送ることができなくなることもあります。生徒心得は全校生徒が楽しく生活するため、そして、中学校を卒業し、高校、社会へ進む際に大切になってくるものです。学校生活に関して、分からぬことがあります。先生や先輩に質問してください。

★ 2年生 「友達を大事にしよう！！」

中学校生活は、残すところあと2年間です。そして2年後は高校進学などでそれぞれ別の道を歩き出すことになります。クラスの一人一人の考えをしっかりと理解するとともに、自分の考えをはっきりと伝えることができるようになってほしいと思います。友達を大切にすると、言葉で言うのは簡単ですが、意外に難しいことなのかもしれません。自分から人に優しくするということを大事にしてください。

★ 3年生 「1年間の計画を立てよう！！！」

中学校生活は今年度1年となりました。そして、来年春には入試が待っています。時間は万人に平等です。勉強をしなかった人にも入試はやってきます。4月の時点で1年間の大まかな計画と、各種テストに向けての細かな計画をしっかりと立ててください。

「忙しかったから勉強できなかった」などという言い訳は聞きたくありません。自分自身の将来を考え進路選択し、その実現に向けて努力してください。

生徒指導って…

この言葉を聞くと、怒られるというイメージがあるかもしれません。生徒が成長していく上で何か困難なことにつまずいたときの手助けをするもので、今後生きるための、様々の能力の伸長を助けていくことが基本となっています。（もちろん、是は是、非は非の精神で指導しますので、それぞれの生徒にとって必要なときは厳しく指導することもありますが…。）もしも、何か指導上のことで分からぬことがあります。すぐにご連絡下さい。学校、保護者、地域が三位一体となって初めて、子ども達の健全な成長が約束されると思っています。そのためにも生徒指導という機能を、堅く考えず、どうぞご活用下さい。今後ともよろしくお願ひ致します。

1年生の保護者の皆様へ

ご入学おめでとうございます。この通信は生徒指導に関する情報を家庭向けに発信するものです。また、保護者の方々の学校に対する意見や、気になることも募っております。生徒を通しての手紙の受け渡しや電話でも何でもかまいませんので、ご連絡いただければ幸いです。学習に関わってですが、今年1年間の学習は残り2年間の基礎となります。つまり、今年度の学習事項がある程度定着していかなければ、その後に大きく影響を与えます。少しずつ家庭学習をする習慣をつけていってほしいと思います。また、中学生になると精神的にも大きく成長する時期でもあり、反抗的な態度を見せることもあります。しかし、成長する上で、第二次反抗期は必ず必要なことですので、暖かく見守っていただきたいと思います。

2, 3年生の保護者の皆様へ

生徒達はそれぞれ希望を持って進級したことだと思います。2年生は中堅学年として期待され、後期になると学校の中心として活躍することと思います。しかし、いわゆる「中だるみ」の学年と呼ばれることも多いです。まずは目標を作り、そして、それを達成しようと努力することによって、中だるみから脱却するきっかけになると思います。また、進級により上級生になったということで1学期前半は気持ちが落ち着かない日々が続くことがあります。気になることがございましたら、すぐに学校の方へ連絡いただければ幸いです。

3年生は義務教育最後の年となりました。受験校を具体的に絞り込む時期です。しかし、修学旅行、最後の中体連、全てが「最後の～」行事となり、それらに対しても一生懸命になりすぎて、受験勉強を始めたのは冬休みからという生徒も今まで少なくありません。しかし、日常の取り組みが一番大事であり、どんなに忙しく疲れていても、少しずつでも家庭学習を続ける習慣を付けてほしいと思います。

「生徒指導通信」は基本的に月刊で、年間12号程度（多少の増減はあります）の発行を予定しております。

